

SSKO

Drug Addiction Rehabilitation Center

DARC

Grow up!!

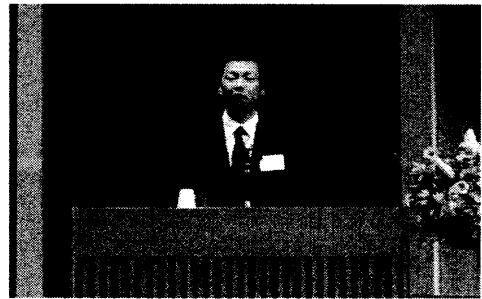
栃木ダルク

ニュースレター 第43号(2006, 10, 16)

セカンドフォーラムを終えて

栃木 DARC 代表 栗坪千明

去る10月8日の日曜日に2回目のフォーラムを無事終了しました。参加者は100名を越え、ますますのフォーラムだったと思います。参加者の皆様には厚く御礼申し上げます。しかし欲を言えば一般参加者の数が少なかったのが残念です。



今回は国立精神・保健センター薬物依存研究部の部長で医師の和田清先生に基調講演をいただきました。日本の依存者の現状、依存



和田清先生

症の医学的な見解などをわかりやすくお話されました。特に何年間も薬を使い続けると脳内のA10神経というところが傷んでしまい、達成感を得ることが出来なくなってしまうところが印象的でした。では薬物依存者はどこでその分を補っているのかという疑問が残りましたが、こうして私も何の問題もなく生きているので、人間とは不思議な造り

をしているものだと思います。また最近のゲイトウェイドラッグとして大麻が増えているがシンナーが減っているわけではなく、薬物も多種多様化しているということ。そして、欧米では伝統的な治療共同体（Therapeutic Community 通称TC）のプログラムの紹介など興味深い話を聞くことが出来ました。



フォーラムでは初登場の栃木DARCメンバーによるカホーンのパフォーマンスが実現しました。この楽器は製作から演奏

までプログラムとしてやる事が出来るので、回復にも重要な役割を果たしています。3曲のパフォーマンスを那須町で活動しておられるウクレレ演奏グループのイオノ・デ・ムジカの皆さんと一緒にしました。皆フォーラムに向けずいぶん前から練習を続けてきました。その成果が当日には出たと思います。

NPO アディクションサポートセンターNASUの渡邊さんからは、自身の体験を中心とした依存者との初めての出会いなど薬物依存に関する気さくな話が聞けました。

本人と家族の体験談では、本人は覚せい剤依存のメンバーとアルコールのメンバーで栃木ダルクに入寮するまでと入寮してから考えがどう変



渡邊先生

わっていったのかという話、家族は依存者とどう向き合ってきたのかという話など、正直な話を聞くことが出来ました。



「カホン」ってな～に？

カホンっていう楽器、皆さんはご存知ですか？

僕が初めて見たとき、木で出来たゴミ箱だと思いました。とても楽器の様には見えませんでした。

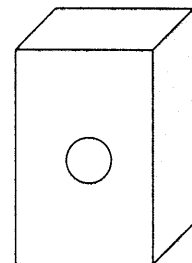
でも音を聞いてみるとビックリ、まるでドラムセットのような、とてもいい音がします。

これはペルーが誇るペルー生まれの打楽器、

「カホン（CAJON）」です。

穴の開いた面を後ろにしてカホンの上に座り、前面を手のひらで叩きます。叩き方や叩く箇所を工夫することによって手軽に本格的なパーカッションとして使えます。

今は3曲しか叩けませんが、今後は曲目を増やして色々な場所で演奏できるようにしていきたいと思っています



カホン

回復できるかな？

シュン

栃木に来て13ヶ月が経ち、クリーンも今月で14ヶ月を迎えようとしています。

僕が初めて薬物を知ったのは19才の時、マリファナでした。それまでは全くクスリというものには興味が無く使ってみたくとも思いませんでした。そんな僕が何故クスリを使ったのか？

その当時僕の周りにはマリファナを吸っている友達はいませんでした。ただマリファナは依存性が殆んどなくタバコより害が少ない、それなのに楽しくなれるっていう甘い誘い文句だけはどこからともなく自分の耳に入ってきていました。後にそれが自分を苦しい依存の世界への入口となるとも知らずに・・・。

僕はそんな誘い文句に少しの警戒感と残りの好奇心を持ち、まんまと乗っかっていきました。その当時大学1年だった僕は学校の友達から引張り自宅で恐る恐る火を付けました。「あれ？何も変わらない？」もう1回吸いました。「こんなもんか～何が楽しいんだろう？」と思ったその時、自分が笑っている事に気が付きました。どんどん酩酊していく自分が分かります。つけていたテレビに訳も無く爆笑し一人で笑い転げていました。それからは週に1度か2度程度、友達と使う生活を1年位続けていました。最初の1回は1人で使いましたが、2回目以降は常に友達と使い1人で使う事はありませんでした。その頃はいつでも止められると思っていて、実際2ヶ月位使わない（っていうか手に入らない）時期もありました。別に苦しくもなかったですし・・・。でもそれが2年目になる頃には毎日吸っていたし1人も使うようになりました。バッチリ効いていても何かをする時あまり支障を感じない。使っていても勘繰ったり罪悪感を持ったりしない。普通は感じるであろう違和感すら持たなくなっていたんです。もうその頃は色々なクスリに嵌っていたしマリファナと何かを混ぜて使うことには特に楽しみを覚えていました。ケミカルはヤバイと思っていた自分がそれらを使い夜通し遊んでいました。僕はシラフでの遊び方を忘れていきました。クスリを使っていた時はどれだけジャンキーになれるかというものにステータスも感じていました。でもシャブだけは“絶対にやらない”。そう決めていました。が・・・ある時期からマリファナが入らない日が2週間程続いていた時、僕はもうマリファナが無いと何に対しても楽しみを失っていました。そんな時にシャブを使っていた友達を思い出し、その友達が何も変わった様子が無かった事に気づき、仕方ないからシャブでも使ってみるかという気持ちになりました。早速引張ってきました。友達に使い方を聞き、一緒に使ってみました。何かが変わ

りました。何かが冴えた感じがし、視界が明るくなったような気がしました。「なかなか良いじゃん」そんな感じだったと思います。でもそれ以上に感じたのが覚醒剤を使ってしまったという罪悪感、体が汚れたような後味の悪さ。当時は本当に覚醒剤に対して軽蔑だとか、ヤバイもの等良いイメージは全く無かったので。只、先にも書いた通り仕方なく使ったという表現が1番あっていていると思います。そんな気持ちとは裏腹に2度、3度と使う内にそんな思いはなくなっていました。3ヵ月後には完全に依存し来る日も来る日も使い、すぐに止められると思ってたにも係わらず常に持っていたし、学校でもバイト中でもいつでもどこでも使っていました。覚醒剤を使う事が生活の一部になりました。使い続けるうちに自分では気が付かないうちに追跡妄想・被害妄想・幻聴等が出てきて、ただ苦しいだけの生活を送るようになりました。もうその頃には現実と妄想の区別がつかなくなっていました。

おかしい事ばかり言う自分の為に泣いてやめさせようとする友達、友達の家に置いて自分に使わせないようにする友達、そんな友達がいるのに自分は何度となく辞めると宣言し、また使うという繰り返しでした。幻聴に悩まされ大声で今まで関った人に対して謝ったこともあります。妄想と幻聴にとうとうギブアップした時、全て親に白状しました。1度目は精神科に連れて行かれました。そして2度目の時がダルクです。

僕は本でダルクの事を知っていたのでかなりの不安を持って入所しました。でもそこにいたのは自分の世話をしてくれた先行く仲間たち。結果としてその仲間たちに依存もしましたが、今も回復が続けられているのはその仲間たちのお陰だと思っています。毎日ミーティングをしていくうちに家族、特に兄姉に対して劣等感を感じている自分に気付き、それなら兄姉の使わないクスリを使って勝とうという気持ちがあった事にも気付きました。未だに兄姉と比べてしまう事がありますが、彼らが自分の目標だし、彼らがもし自分の立場ならどこまで頑張れるかという気持ちも手伝って施設に留まる事が出来ています。クスリを使い、狂い、以前からするとネガティブでマイナス思考な要は暗い人間になった気がします。それでも今はクスリを使わない新しい生き方を探す事で、無くしたものをもう1度取り戻し、今までした事の無い経験をシラフで受け止めていきたいと思っています。

これからは今まで出来なかった“努力する”という事をゆっくりと身につけていきたいと思っています。ありがとうございました。

ビギナー家族教室

テーマ「薬物依存症と突き放し」

毎週土曜日 予約が在り次第

時間 13時30分～15時30分

場所 宇都宮OP

参加費 1家族2000円

電話予約制

連絡先 028-650-5582

発行所

郵便番号一五七一〇〇七三
東京都世田谷区砧六一二六一二一
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価100円

9月献金を下さった方々

河内町青少年育成町民会議事務所様、山口武様、愛知家族会様
原茂様、飯室眞次様

匿名1名様

9月献品を下された方々

山口武様、栗坪誠様、高橋美樹様、水井清次様、飯室光江様
大藤礼子様

匿名5名様

発送作業簡略化の為、振込み用紙は全員に同封させていただいております。
ご理解の程よろしくお願いいたします